

令和6年度国立赤城青少年交流の家教育事業

「あかぎ無限大キャンプ（本キャンプ）」

1. 趣旨

- (1) 協働的な体験プログラム（野外炊事、赤城山登山、レクリエーション等）を通して、多様性を認め合える意識の醸成を図る。
- (2) 長期自然体験活動を通して、健康の保持増進（近視進行の抑制）を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年8月11日（日）～8月18日（日）【7泊8日】

(2) 参加者 23名

5年生男子（8名） 6年生男子（4名）

5年生女子（6名） 6年生女子（5名）

3. 企画運営のポイント

- (1) グループでの話し合いが課題解決的な内容になるよう、必要感のある課題を設定し、計画的に実施した。
- (2) 本キャンプの日程をステージごとに分け、事前キャンプから事後キャンプまでを通して、ステージのねらいを参加者が意識できるようにしながら実施した。
- (3) 「サード【成長】」ステージでは、個人で登山のコースを選択する赤城山選択登山を設定することにより、個人の成長を実感できるような活動を実施した。

4. 日程

| | 午 前 | 午 後 | 夜 |
|--------------|---------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 8月11日 （日） | | ・開会式・アイスブレイク ・チームミーティング① ・眼の検査 | ・チームミーティング② ・ふりかえり |
| 8月12日 （月） | ・あかぎアドベンチャー プログラム | ・テント設営 ・選択クラフト体験 （かんな箸・スプーン） | ・チームミーティング③ ・ナイトウォーク ・ふりかえり |
| 8月13日 （火） | ・野外炊事 ・選択レクリエーション | ・野外炊事 | ・登山安全指導 ・ふりかえり |
| 8月14日 （水） | ・赤城山登山 （地蔵岳、小沼） | ・登山ミーティング ・チームミーティング④ | ・ふりかえり |
| 8月15日 （木） | ・選択レクリエーション | ・選択クラフト体験 （かんな箸・スプーン） ・野外炊事 | ・ふりかえり |
| 8月16日 （金） | ・赤城山選択登山 | ・赤城山選択登山 （地蔵岳・黒檜山） | ・チームミーティング⑤ ・ふりかえり |
| 8月17日 （土） | ・キャンプのまとめ ・お別れレクリエーション 大会 | ・眼の検査 ・パーティ準備 ・お別れパーティ | ・ふりかえり |
| 8月18日 （日） | ・ふりかえり ・閉会式・決意表明 | | |

5. 主な活動内容



「あかぎアドベンチャープログラム」



「テント設営」



「選択クラフト体験」



「チームミーティング」



「赤城山選択登山」



「お別れレクリエーション大会」

6. 成果と課題 ※1名未実施

(1) 参加者アンケート結果

満足 : 18人 (81.8%) やや満足 : 4人 (18.2%)
やや不満 : 0人 (0%) 不満 : 0人 (0%)

(2) 参加者の声

- ・グループのみんなと協力して、仲良くなることができた。
- ・初めてのことがたくさんあったけど、協力して取り組めた。
- ・みんなで相談して、楽しくレクリエーションの内容を決めることができた。
- ・赤城山選択登山では、チームは関係なくみんなで声をかけ合い、協力できた。
- ・みんなで協力してやり遂げることは楽しかったし、達成感もあった。
- ・キャンプを通して、協力や仲間の大切さを学んだ。
- ・絆を深めるためには話すことが大切だと分かった。

(3) 成果

- ・参加者アンケートで、「みんなで相談して、楽しくレクリエーションの内容を決めることができた。」「みんなで協力してやり遂げることは楽しかったし、達成感もあった。」等の感想から、グループでの話し合いに課題解決的な課題を設定したことで、グループ内での多様な考えにふれ、互いに認め合うことにつながった。
- ・ステージごとのねらいにせまるプログラム編成を行ったことで、参加者がねらいを意識しながらプログラムに参加することができた。
- ・キャンプ後の学校生活や家庭生活の変容についての保護者アンケートには、「料理や洗濯のお手伝いをしてくれるようになった。」「運動会の副団長になった。」「困ったことや大変な時に、友達に相談できるようになった。」等の記載が見られた。本事業の経験が参加者の主体的・自発的な行動につながった。

(4) 課題

- ・研修指導員によるプログラム指導をより効果的に取り入れるため、プログラムの精選や、プログラムの時間配分の工夫が必要である。

担当：企画指導専門職 平澤 輝樹